

福井県のがん登録状況

■ 最新集計について

集計の期間

罹患年月日が平成 19（2007）年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間。過去の罹患年についても再集計。

集計の時期 平成 23（2011）年 7 月 25 日現在

罹患年月日の決め方

- ① 届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする
- ② 届出がなく、死亡小票の写しによってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする

集計の対象

- ① ICD-0-3 分類の性状 2（上皮内）、3（悪性、浸潤性）で示される新生物
- ② DCO 例については、①に加えて、ICD-0-3 分類の性状 1（良性・悪性の別不詳：例 悪性の明示のない〇〇腫瘍）で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺

■ 福井県がん登録の概況

表 1 福井県がん登録の精度の推移（標準集計） 昭和 59 年～平成 19 年

年	人口	悪性新生物		届出精度		診断精度			自主的届出登録率(%)
		罹患数 I	死亡数 M	DCO/I (%)	I / M	H / I (%)	H / R (%)	MV / R (%)	
S59～S61	815, 229	2, 570	1, 368	9. 1	1. 88	68. 7	75. 5	81. 0	79. 9
S62～H 1	822, 773	2, 709	1, 491	2. 4	1. 81	75. 0	76. 8	81. 4	80. 3
H 2～H 4	824, 560	2, 992	1, 588	3. 3	1. 88	73. 3	75. 8	80. 7	79. 8
H 5～H 7	828, 291	3, 312	1, 699	4. 3	1. 95	70. 3	73. 4	79. 9	84. 1
H 8～H10	829, 341	3, 791	1, 939	6. 1	1. 96	69. 1	73. 6	82. 6	81. 4
H11～H13	829, 556	3, 842	2, 049	4. 3	1. 88	70. 1	73. 3	81. 1	85. 5
H14～H16	825, 696	4, 246	2, 159	3. 8	1. 97	69. 2	72. 0	79. 9	84. 3
H17～H18	820, 044	4, 748	2, 238	3. 3	2. 12	72. 7	75. 2	81. 6	86. 8
H19	815, 128	5, 412	2, 278	2. 6	2. 38	76. 4	78. 5	84. 1	88. 1

※複数年については平均数および率である。

I：罹患数（上皮内がんを含む） M：死亡数 R：届出患者数 H：組織学的診断実施数
 MV：顕微鏡学的診断実施数 DCO：死亡票のみのものの割合
 自主的届出登録：自主的届出による登録（罹患数から死亡票のみのものと補充票による登録を除く）

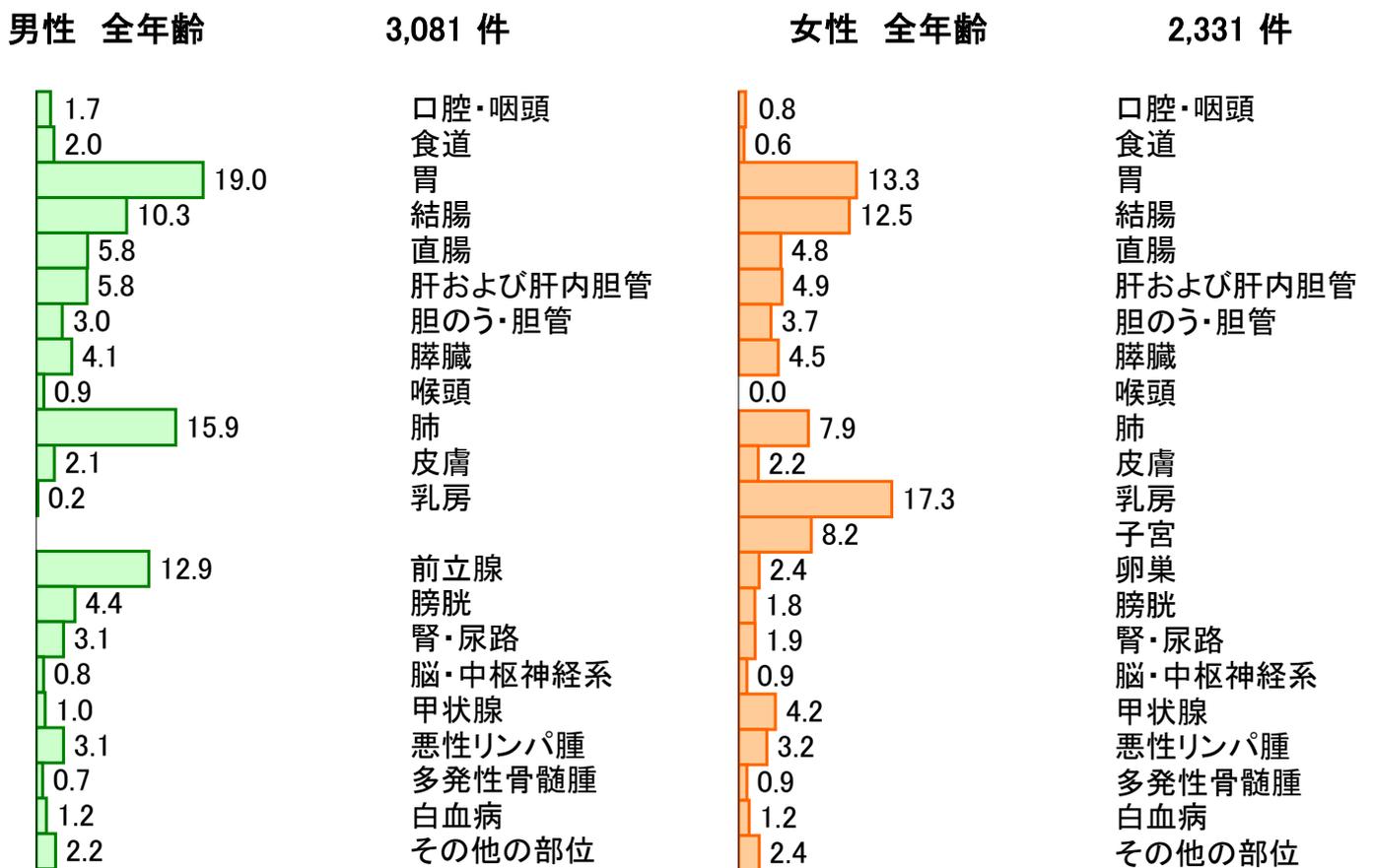
福井県がん登録は、届出漏れの少ない精度の高いがん登録を目標としてきた。

平成 19 年の自主的届出登録率は 88.1%と、依然高い率を維持している。また、死亡票のみで登録されたものの割合（DC0）も 2.6%であり、ここ数年間 5%を切る高い届出精度となっている。顕微鏡学的診断実施率は 84.1%と年々増加し、過去最高となった。今後も引き続き各医療機関からの精度の高い届出が必要と思われる。

罹患の概要

平成 19 年に福井県において、男性延べ 3,081 件、女性延べ 2,331 件の、合計延べ 5,412 件のがんが、新たに診断された。男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、前立腺、結腸、直腸、肝と続く。女性で最も多いがんは乳がんであり、胃、結腸、子宮、肺と続く（図 1）。

図 1 部位内訳（%）上皮内がんを含む（表 1-A、B から作成）



(1) 罹患とその年次推移

表2に、福井県におけるがんの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の年次推移を示した。

表2 悪性新生物罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移

—全部位・性別— 昭和59年～平成19年

	年	罹患数			粗罹患率			年齢調整罹患率		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
全部位 1	S59～S61	1,382	1,185	2,570	349.6	285.0	315.3	240.7	170.7	199.1
	S62～H1	1,505	1,203	2,709	377.1	284.1	329.2	242.9	160.1	194.1
	H2～H4	1,665	1,328	2,992	415.2	312.9	362.6	248.6	169.9	201.7
	H5～H7	1,844	1,468	3,312	458.0	344.8	399.9	258.3	178.5	210.8
	H8～H10	2,172	1,619	3,791	538.9	380.0	457.2	282.2	186.6	226.2
	H11～H13	2,146	1,696	3,842	533.2	397.2	463.1	259.9	182.1	214.7
	H14～H16	2,416	1,830	4,246	604.5	429.7	514.4	264.7	184.1	217.5
	H17～H18	2,699	2,031	4,730	681.0	479.4	576.0	289.2	206.6	241.0
	H19	3,081	2,331	5,412	783.1	552.8	663.9	322.7	244.6	276.3

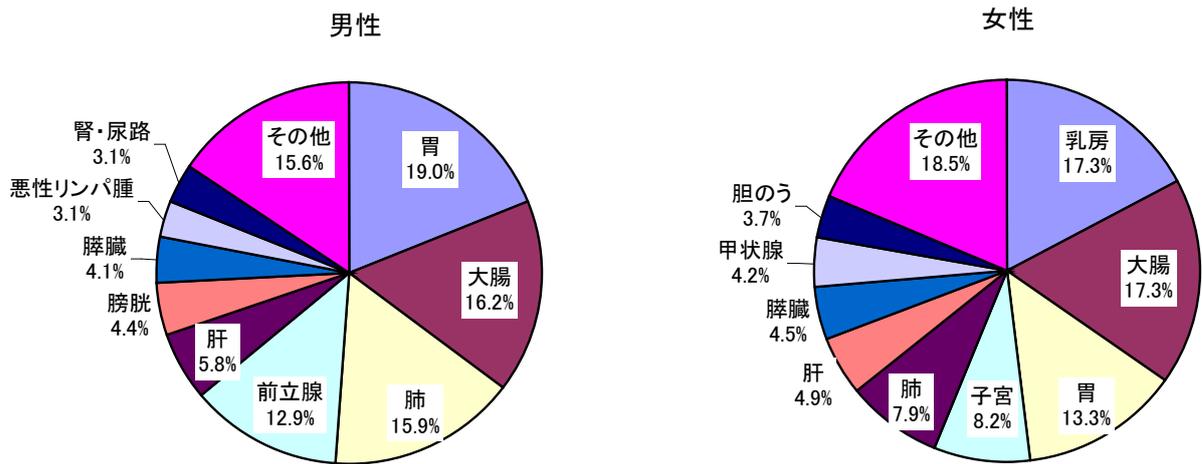
※複数年については平均数および率である。

注1：率：人口10万対 注2：調整罹患率の基準人口は世界人口 全部位1：上皮内がんを含む

平成19年も、罹患数、粗罹患率、年齢調整罹患率ともに増加傾向にある。

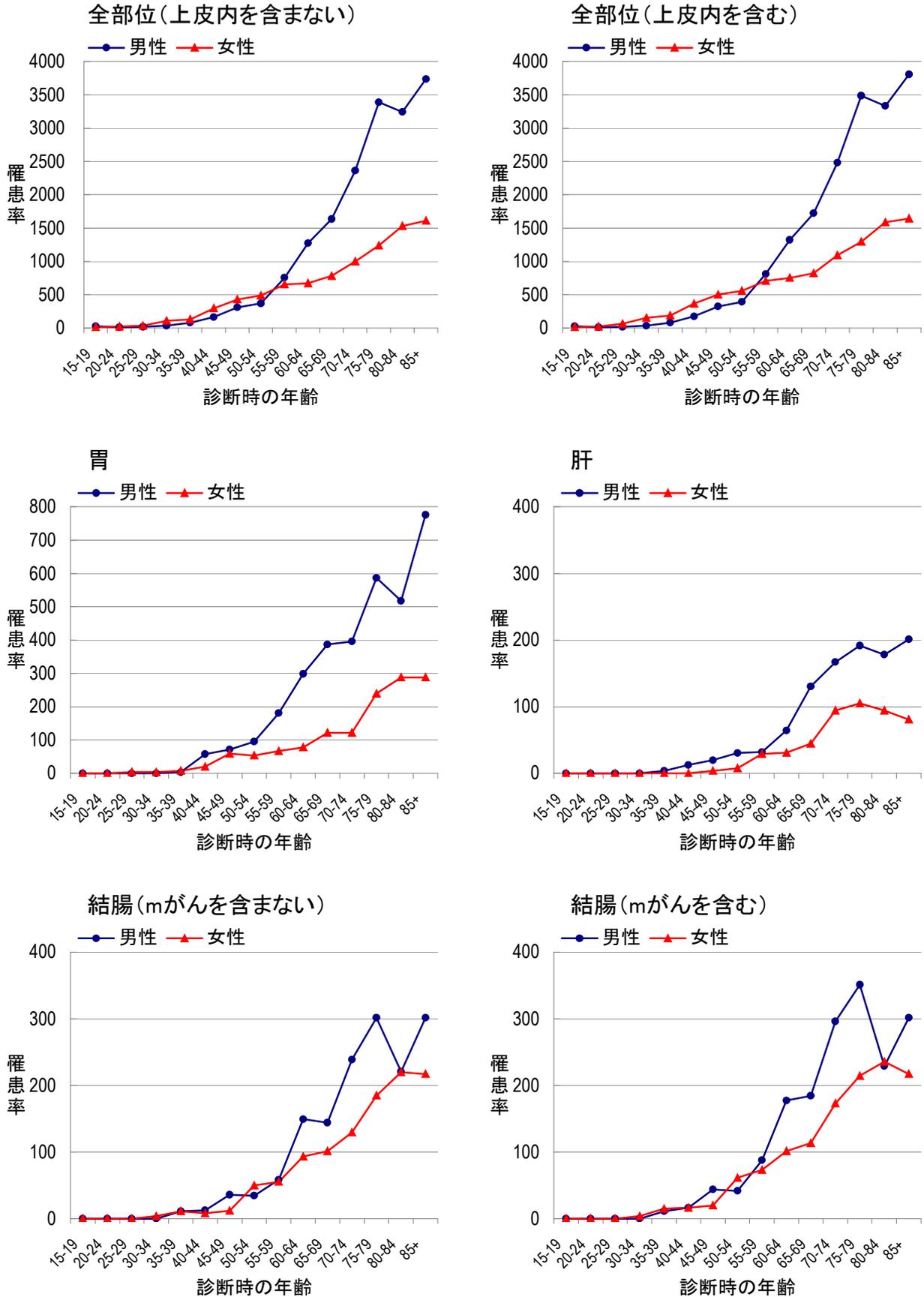
(2) 部位別に見たがんの罹患

図2 部位別罹患割合（上皮内がんを含む）（表1-A、Bから作成）

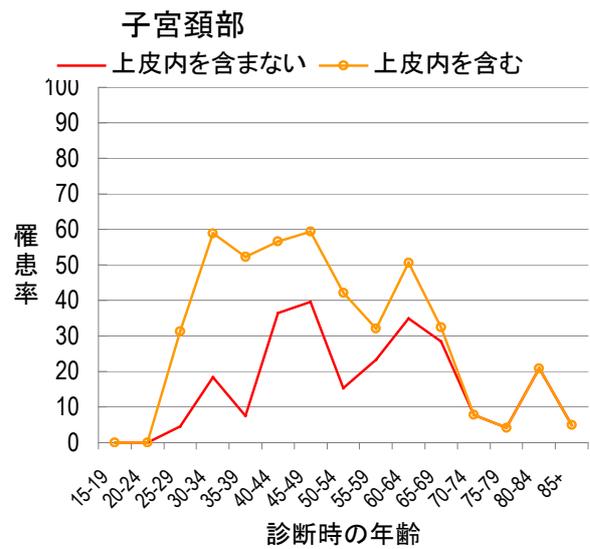
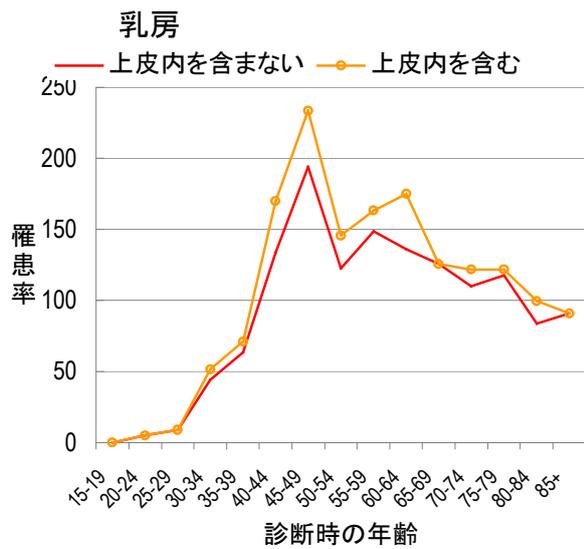
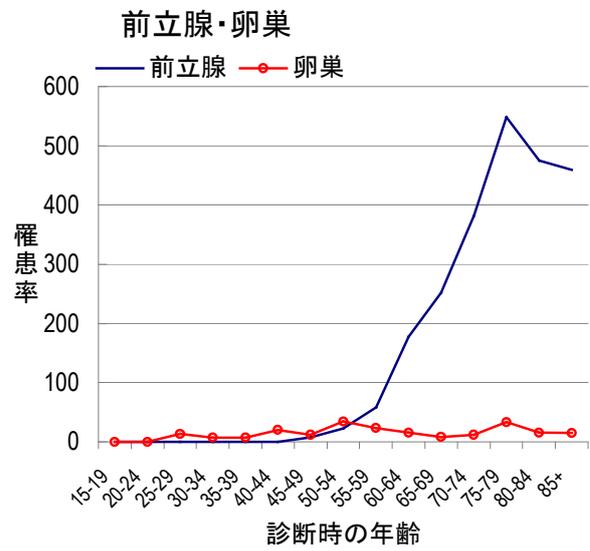
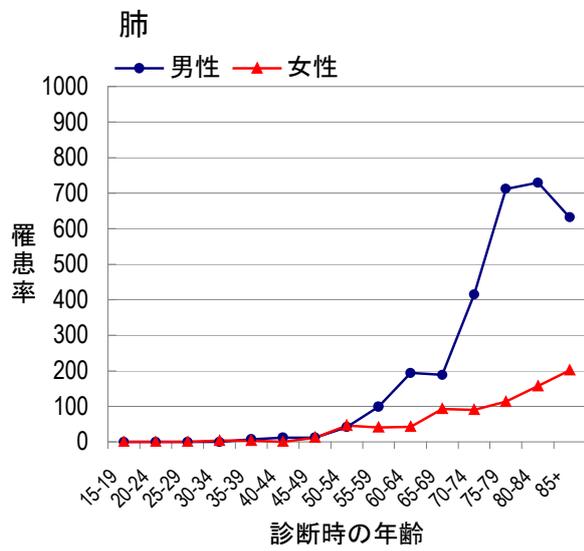
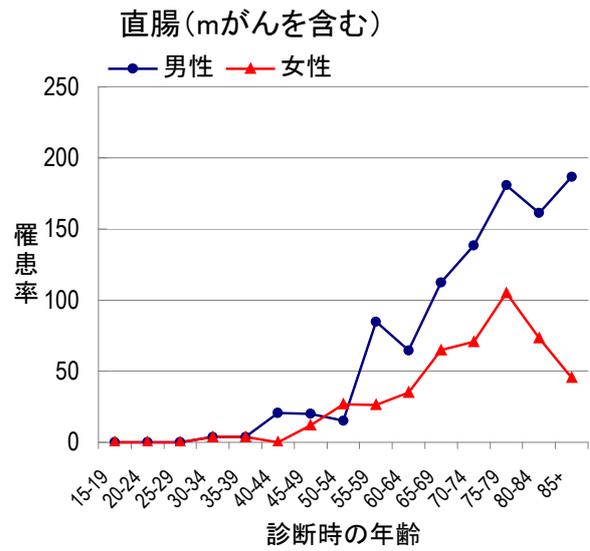
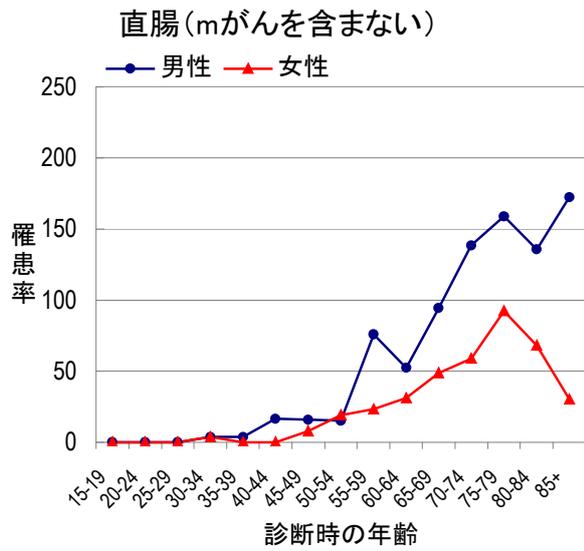


男性は、胃（19.0%）、大腸（16.2%）、肺（15.9%）、前立腺（12.9%）、肝（5.8%）の順で、大腸の割合が増加し、肺と大腸が入れ替わった。女性は、乳房（17.3%）、大腸（17.3%）、胃（13.3%）、子宮（8.2%）、肺（7.9%）の順で、乳房と大腸が同率で第1位となり、子宮と肺の順位が入れ替わった（図2）。

図3 部位別年齢階級別罹患率：人口10万対 (表3-A、Bから作成)



注) mがんについて：我が国の地域がん登録では、大腸（結腸及び直腸）の粘膜内がん（mがん）は上皮内がんとして扱う。



(3) 部位別罹患の年次推移

表3に、昭和59年から平成19年までの罹患数、粗罹患率および年齢調整罹患率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表3 主な部位別罹患数、罹患率の推移

A) 罹患数の推移

—男女計—

昭和59年～平成19年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	肺がん組織	白血病
S59～S61	2,570	29	790	209	127	151	118	93	246	138	117	51	62	76	44
S62～H 1	2,709	37	798	246	145	178	133	106	288	134	100	51	69	83	44
H 2～H 4	2,992	42	815	279	162	205	141	118	329	178	111	59	78	94	43
H 5～H 7	3,312	49	796	363	177	237	156	142	370	202	108	84	93	107	49
H 8～H10	3,792	55	875	405	230	249	174	151	460	216	109	129	120	128	50
H11～H13	3,842	63	828	438	212	260	167	153	458	239	121	134	132	131	48
H14～H16	4,246	77	848	467	210	293	177	178	528	283	111	228	141	131	55
H17～H18	4,729	97	882	505	256	292	183	189	615	346	145	275	154	138	52
H19	5,412	77	896	610	292	293	177	230	675	409	192	396	178	171	64

B) 粗罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成19年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	肺がん組織	白血病
S59～S61	315.3	3.5	96.9	25.7	15.5	18.5	14.4	11.4	32.0	16.9	27.8	12.8	7.7	35.7	5.5
S62～H 1	329.2	4.5	96.9	29.9	17.7	21.6	16.2	12.9	35.1	16.4	23.6	12.8	8.3	10.0	5.3
H 2～H 4	384.0	5.1	98.7	33.8	19.7	24.8	17.1	14.3	39.9	21.6	26.2	14.8	9.4	11.4	5.3
H 5～H 7	399.9	5.9	96.1	43.8	21.4	28.6	18.9	17.1	44.7	24.4	25.5	20.9	11.3	12.9	5.9
H 8～H10	457.2	6.6	105.5	48.8	27.7	30.0	21.0	18.2	55.5	26.0	25.5	31.9	14.5	15.4	6.1
H11～H13	463.1	7.6	99.9	52.8	25.5	31.4	20.2	18.4	55.3	28.8	26.8	33.3	15.9	15.8	5.8
H14～H16	514.4	9.3	102.7	56.6	25.5	35.5	21.4	21.5	63.9	34.4	26.2	57.0	17.1	15.8	6.7
H17～H18	576.8	11.9	107.5	61.5	31.2	35.6	22.3	23.0	75.0	42.2	34.2	69.4	18.8	16.8	6.4
H19	663.9	9.4	109.9	74.8	35.8	35.9	21.7	28.2	82.8	50.2	45.5	100.7	21.8	21.0	7.9

C) 年齢調整罹患率（人口10万人対）の推移

—男女計—

昭和59年～平成19年

年	全部位1	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	肺がん組織	白血病
S59～S61	199.1	2.1	61.0	15.7	9.6	11.3	8.4	6.7	18.7	12.5	20.6	8.0	4.3	5.9	4.4
S62～H 1	194.1	2.5	56.9	17.6	10.4	12.5	8.4	6.7	18.7	11.4	16.1	7.0	4.3	5.9	3.7
H 2～H 4	201.7	2.6	54.7	18.3	11.1	13.4	8.1	6.9	13.7	15.1	17.5	7.6	4.7	6.4	3.6
H 5～H 7	210.8	3.1	50.1	22.1	11.3	14.8	8.2	7.6	21.2	16.3	17.7	9.8	5.5	6.9	3.7
H 8～H10	226.2	3.3	51.4	23.2	13.9	14.7	8.2	7.4	23.6	17.0	17.6	14.0	6.2	7.5	4.4
H11～H13	214.7	3.3	45.1	23.3	12.2	14.0	7.1	7.4	22.0	18.2	19.3	13.2	6.5	7.6	3.7
H14～H16	217.5	4.1	42.2	22.7	11.3	13.9	6.4	7.8	22.5	20.9	17.7	21.4	6.4	7.0	3.3
H17～H18	240.9	5.2	42.5	23.9	13.4	13.5	6.4	7.8	25.4	25.5	24.0	25.3	6.4	7.6	3.7
H19	276.1	4.0	43.2	29.2	14.2	13.0	6.3	10.0	27.3	31.8	32.4	36.4	7.5	8.9	5.4

※複数年については平均数および率である。

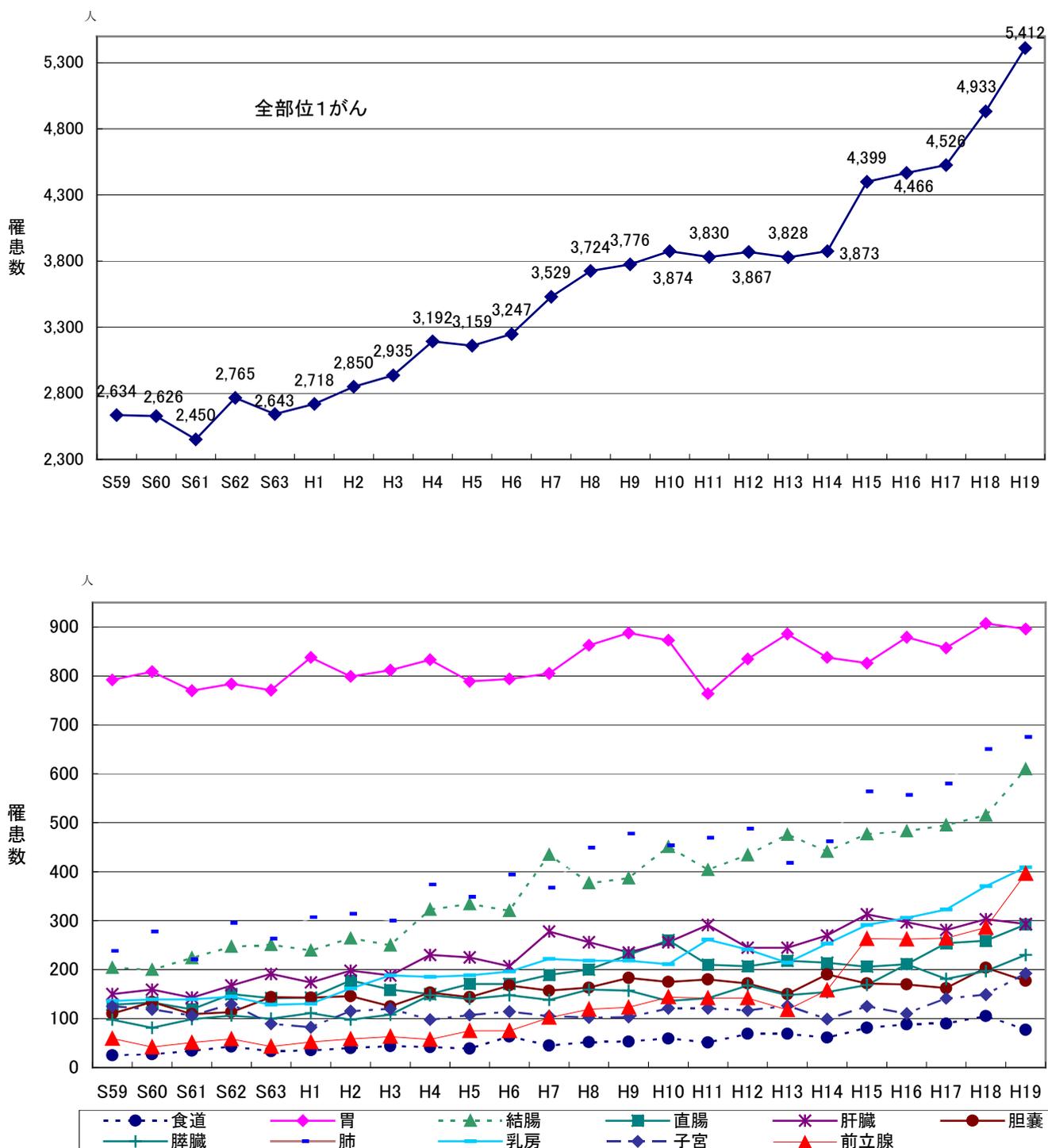
※胆嚢は胆管を含む。

※子宮がんは女のみの数および率を用いた。

※前立腺がんは男のみの数および率を用いた。

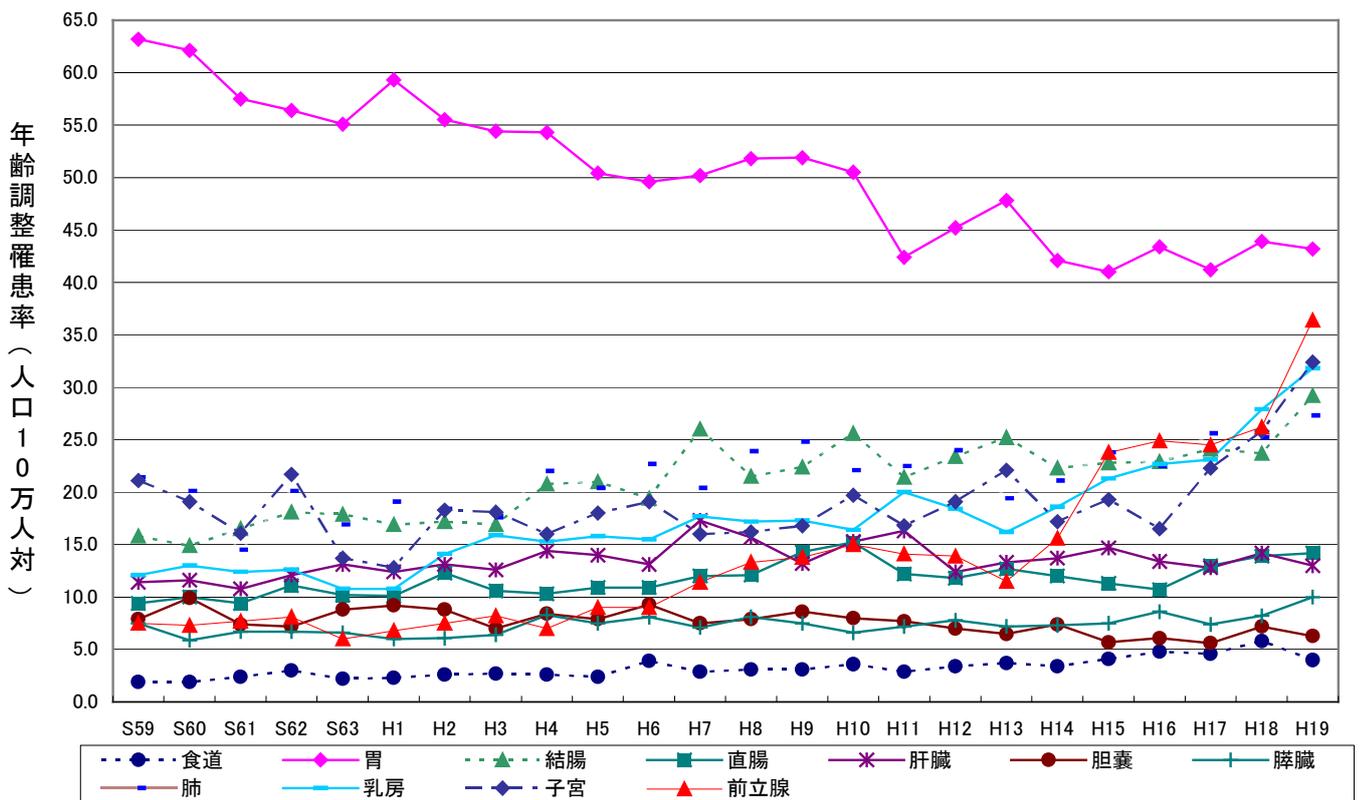
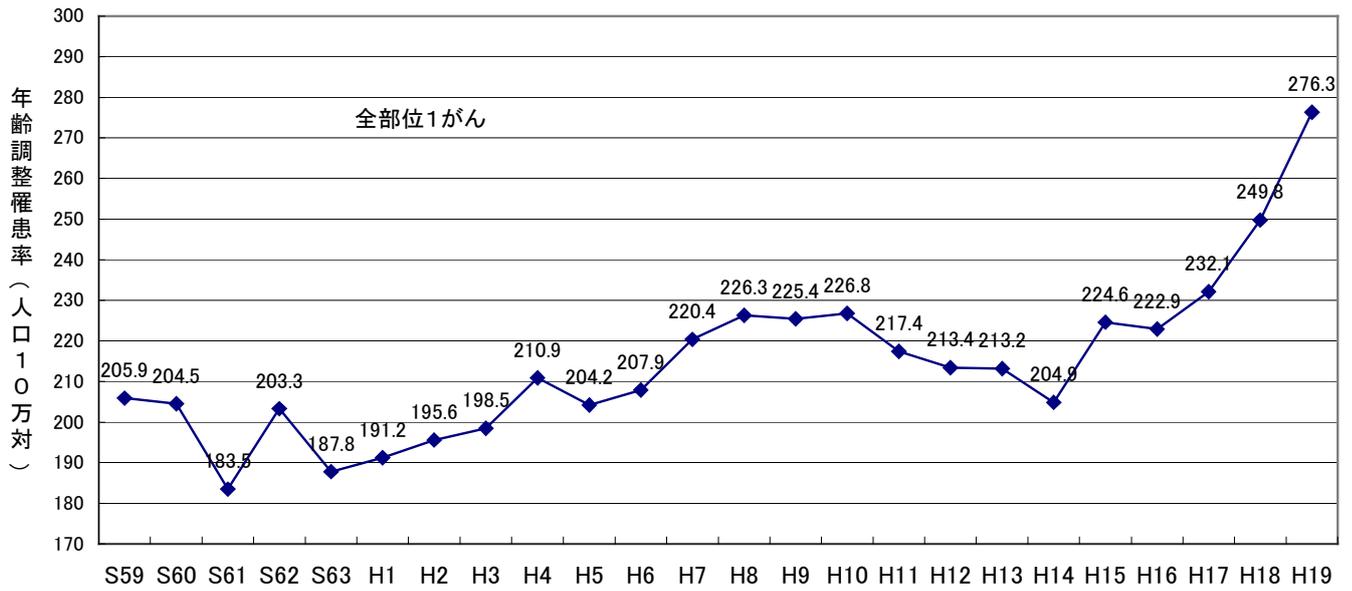
年齢調整罹患率で見ると、全部位のがんの罹患は近年増加している。平成18年の率と比較すると、主に前立腺がん、子宮がん、結腸がん、乳がんの増加によるものと考えられる。

図4 主な部位別罹患数の推移 (男女計)



※ 胆嚢は胆管を含む。

図5 主な部位別年齢調整罹患率の推移 (男女計)



※胆嚢は胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。

(4) 年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、平成 19 年に新たに診断されたがんについて、男女とも罹患者の 6 割以上が 65 歳以上だった。一方、働き盛りの 40-64 歳の年齢層も全体の約 3 割を占めている。女性の 40-64 歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の 15-39 歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんと乳がんが多いためである (図 7)。

その他のほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすい。主ながんの年齢階級別罹患率 (人口 10 万対) (標準集計表 表 3 A, B p39, 40) をみると、男性の胃がん (71.6) は 45 歳以上、肺がん (99.3)、大腸がん (172.3)、前立腺がん (58.4) は 55 歳以上から急激に多くなることが分かる。女性の乳がん (51.6) は 30 歳以上から増え始め、45~49 歳 (233.5) で最も多い。女性の子宮頸がんは、25 歳 (31.3)~65 歳 (50.6) が多いが、子宮体がん (58.3) は 55 歳以上から多くなる。

図 6 年齢別部位内訳 (%) (表 2-A、B から作成)

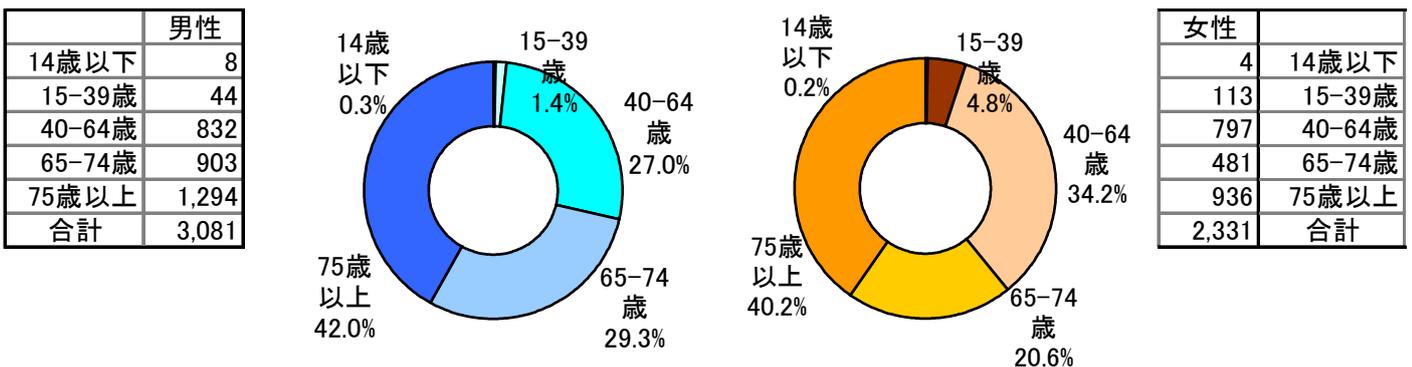
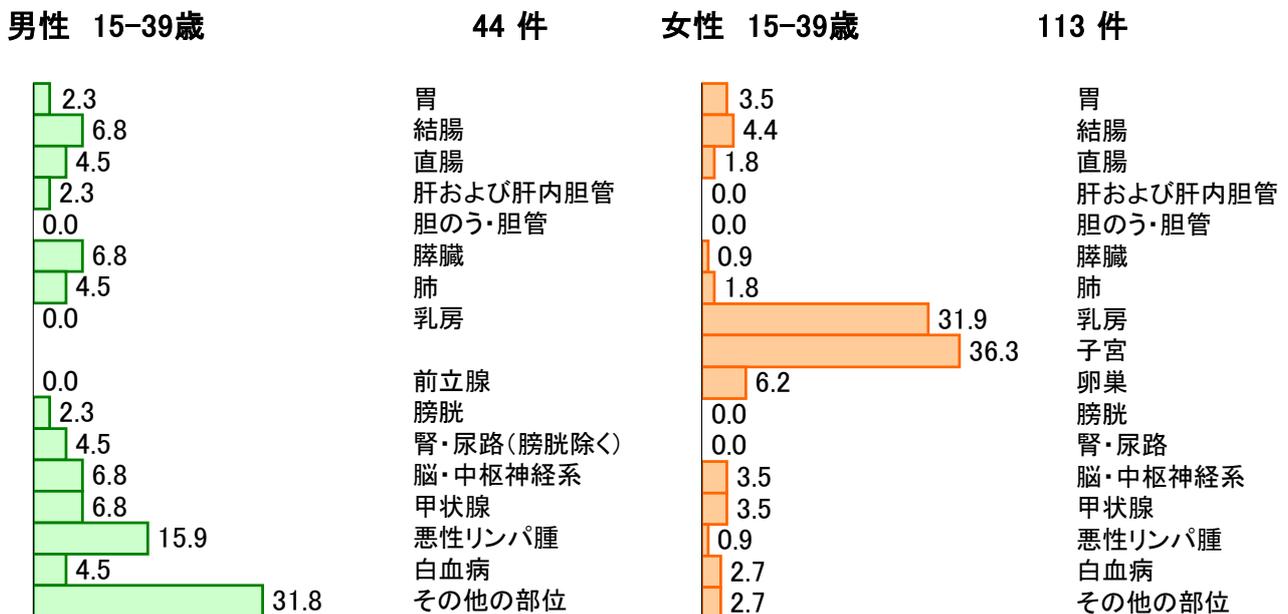
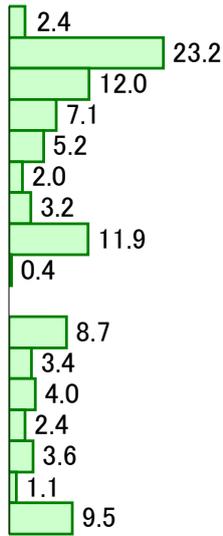


図 7 年齢別部位内訳 (%) (表 2-A、B から作成)



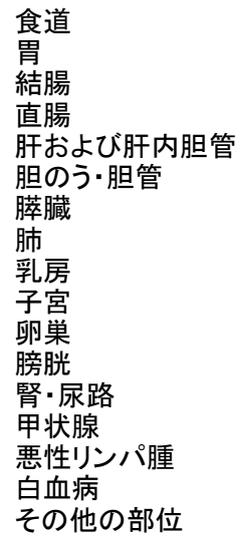
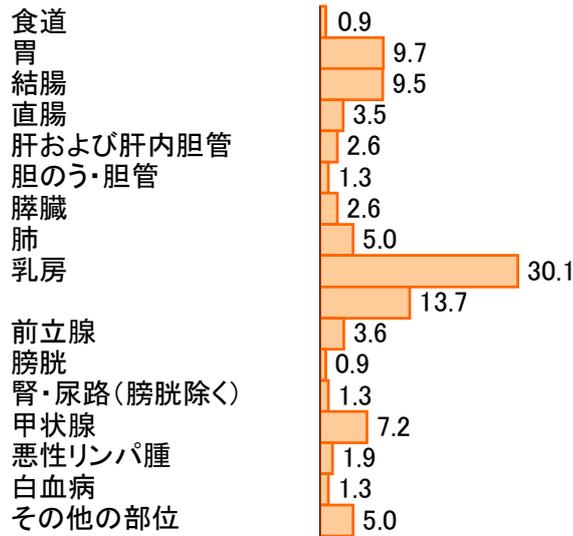
男性 40-64歳

832 件



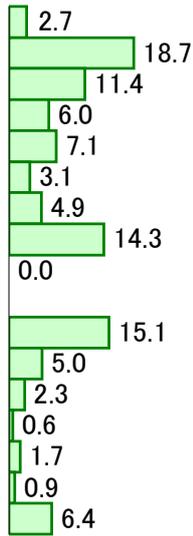
女性 40-64歳

797 件



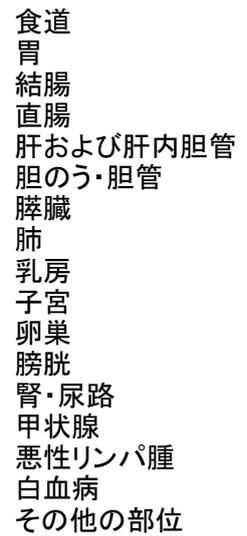
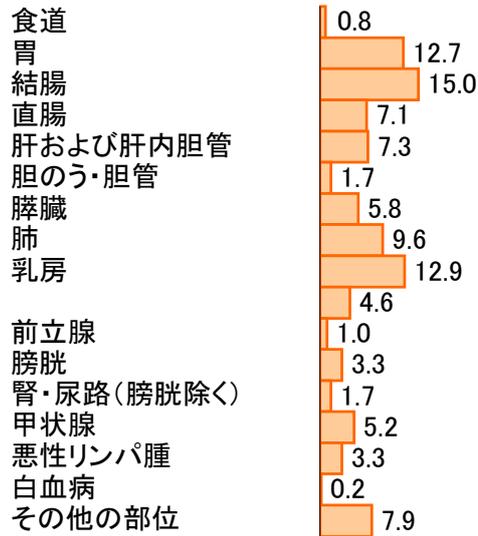
男性 65-74歳

903 件



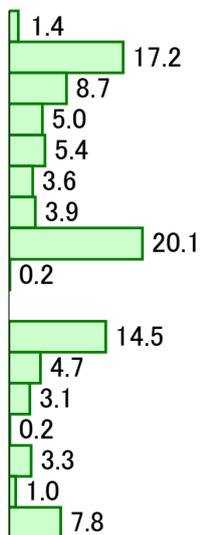
女性 65-74歳

481 件



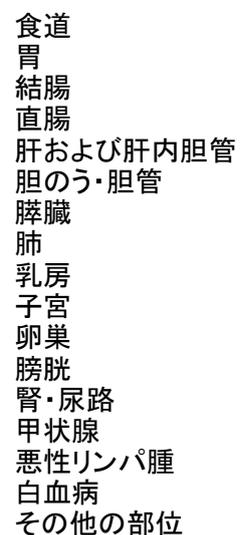
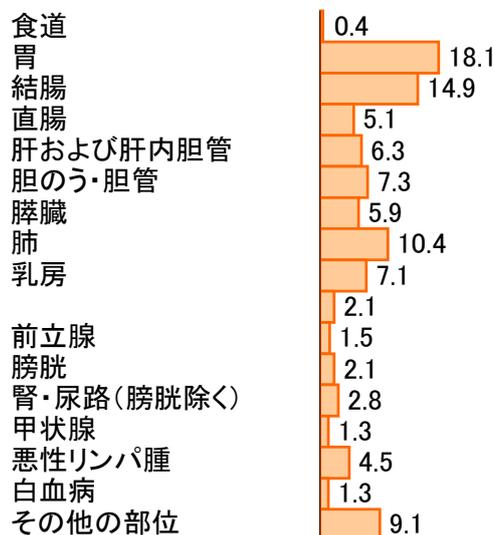
男性 75+歳

1,294 件



女性 75+歳

936 件



(5) 年齢階級別罹患順位

表4には、年齢階級別罹患順位を男女別に第3位まで示した。

表4 年齢階級別罹患部位順位 —男性— 平成19年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	胃	585	大腸	498	肺	490
30-34	皮膚、脳・中枢神経系	2	大腸、膵臓、腎、悪性リンパ腫	1	—	
35-39	大腸	4	甲状腺	3	口腔・咽頭、膵臓、肺、悪性リンパ	2
40-44	胃	14	大腸	9	肝臓、肺、悪性リンパ腫	3
45-49	胃	18	大腸	16	悪性リンパ腫	7
50-54	胃	25	大腸	15	肺	11
55-59	胃	62	大腸	59	肺	34
60-64	胃	74	大腸	60	肺	48
65-69	胃	86	大腸	66	前立腺	56
70-74	大腸	91	肺	87	胃	83
75-79	肺	130	胃	107	前立腺	100
80-84	肺	86	胃	61	前立腺	56
85以上	胃	54	肺	44	大腸	34

※上皮内がんを含む

年齢階級別罹患部位順位 —女性— 平成19年

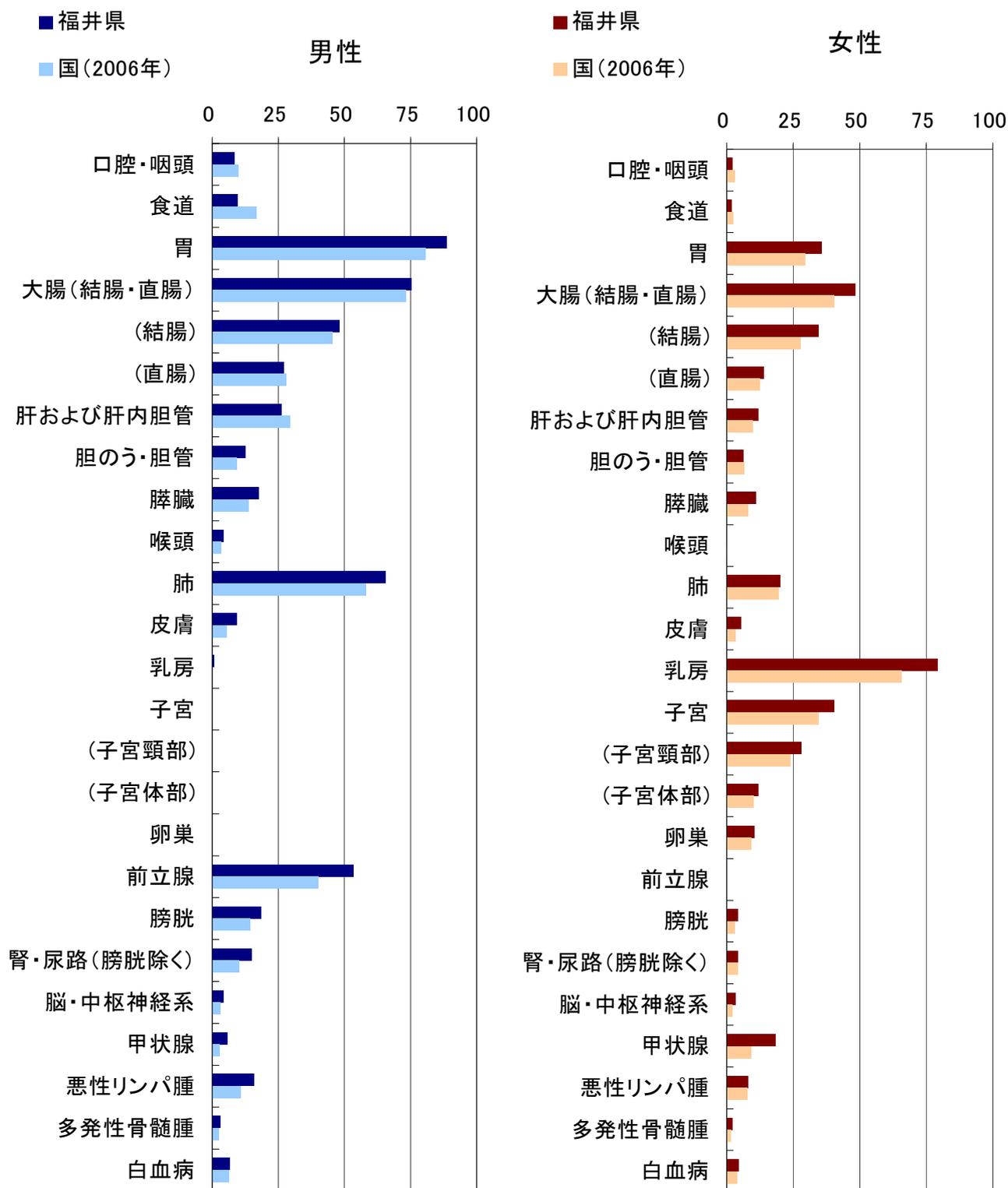
	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	乳房、大腸	404	胃	311	子宮	192
30-34	子宮頸部	16	乳房	14	大腸、卵巣、甲状腺	2
35-39	乳房	19	子宮頸部	14	胃	5
40-44	乳房	42	子宮頸部	14	甲状腺	11
45-49	乳房	59	子宮頸部	15	胃	15
50-54	乳房	38	大腸	23	胃	14
55-59	乳房	56	大腸	34	胃	23
60-64	乳房	45	大腸	35	胃	20
65-69	大腸	44	乳房	31	胃	30
70-74	大腸	62	胃、乳房	31	肝	24
75-79	大腸	76	胃	57	乳房	29
80-84	大腸	59	胃	55	肺	30
85以上	胃	57	大腸	52	肺	40

※上皮内がんを含む

福井県のがんの罹患の特徴

日本全体の推計値と比較すると、男女の胃、男性の肺、前立腺、女性の乳房、子宮、大腸、甲状腺において罹患率が高い。

図8 部位別がん年齢調整罹患率：人口10万対（上皮内がんを含む）（表1-A、Bから作成）



国の値は、がん対策情報センター発行 「全国がん罹患モニタリング集計 2006年罹患数・率報告」より引用。

登録の精度

(1) 届出の精度

表5には主な部位別に死亡票のみのものの割合の年次推移を示した。

表5 主な部位別死亡票のみの者の割合(%)の推移 ー男女計ー 昭和59年～平成19年

年	全部位1	全部位2	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	前立腺	乳房	子宮
S59～S61	9.1	9.1	6.9	8.1	6.1	18.6	12.9	13.2	11.7	13.2	3.7	3.6
S62～H1	2.4	2.4	1.4	1.1	0.9	4.6	3.6	4.7	4.4	6.9	0.0	1.4
H2～H4	3.3	3.3	1.7	1.2	1.5	5.4	3.9	5.4	8.2	3.8	1.5	2.5
H5～H7	4.3	4.3	2.8	3.0	2.6	5.6	4.4	8.1	8.6	3.6	1.2	1.7
H8～H10	6.1	6.1	4.0	4.1	3.7	9.3	8.0	9.4	10.3	2.4	2.2	4.2
H11～H13	4.3	4.4	3.5	3.1	1.6	5.6	5.5	5.8	6.2	3.9	1.8	2.9
H14～H16	3.8	3.9	2.8	2.4	1.6	4.0	6.4	7.7	7.3	2.2	1.1	3.2
H17～H18	3.3	3.5	2.2	1.4	2.4	4.8	6.5	6.4	6.9	1.9	1.4	1.1
H19	2.6	2.8	2.1	1.8	1.0	4.1	4.5	4.3	6.2	0.8	0.7	0.5

※複数年については平均数および率である。

「全登録患者のうち、死亡票のみで登録されている者の割合(%)」(DCO%)が小さいほど届出精度が高いと考えられる。死亡票のみの者の割合は、登録初期は全部位がんで9.1%であったが、年々改善され、昭和62～平成元年には2.4%と届出精度は最高となった。その後悪化傾向にあったが、平成19年には2.6%と改善傾向にある。

(2) 診断の精度

表6には届出患者について主な部位別、顕微鏡学的診断実施率の推移を示した。顕微鏡学的診断には、生検、手術、剖検時の組織診と細胞診による診断がすべて含まれる。

表6 主な部位別顕微鏡学的診断実施率(%)の推移 ー届出患者・男女計ー 昭和59年～平成19年

年	全部位1	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	DCO%
S59～S61	81.0	90.5	83.0	84.8	26.7	58.2	46.2	78.2	93.8	94.0	9.1
S62～H1	81.4	92.7	88.1	88.9	29.5	62.3	41.1	78.0	93.1	91.8	2.4
H2～H4	80.7	93.8	88.8	92.2	23.8	51.4	36.0	76.8	95.0	92.8	3.3
H5～H7	79.9	94.4	87.8	91.4	18.2	54.4	36.4	77.7	95.2	93.4	4.3
H8～H10	82.6	95.3	92.8	95.6	16.5	50.1	29.4	83.1	95.8	94.3	6.1
H11～H13	81.1	95.9	92.2	95.4	15.8	43.9	31.2	78.0	95.7	94.4	4.3
H14～H16	79.9	93.5	90.6	93.0	18.7	45.1	28.5	76.4	95.6	92.3	3.8
H17～H18	81.6	92.9	92.7	92.6	19.0	47.1	32.7	73.3	95.3	96.6	3.3
H19	84.1	93.3	92.8	97.9	17.7	54.2	45.7	76.6	97.6	96.4	2.6

※複数年については平均数および率である。

※胆嚢は胆管を含む。

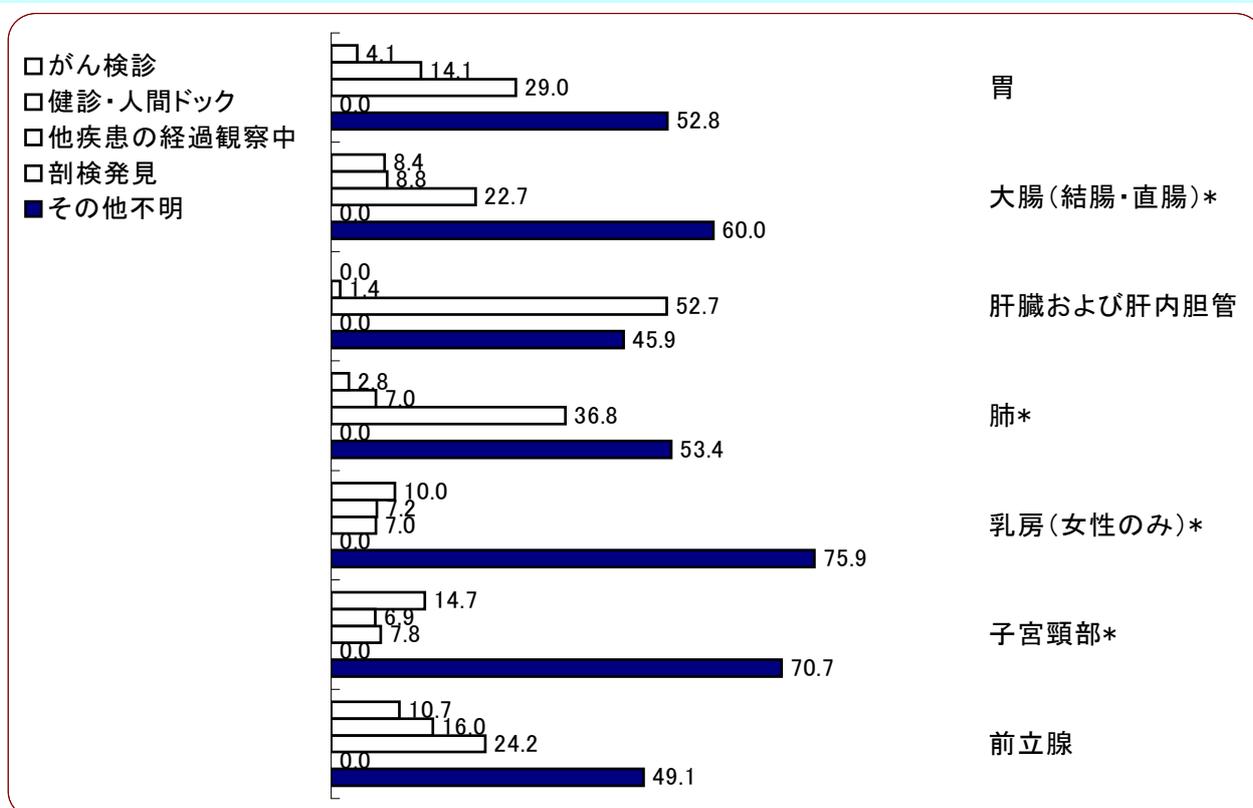
がんの診断が正確かどうかは病理組織診の有無による。その診断の精度をみる1つの目安である顕微鏡学的診断実施率は、例年全部位がんで80%前後を示している。平成19年は全部位で84.1%と、過去最高であった。胆嚢胆管、膵臓がんは改善しているが、肝がんは依然として低率であった。

発見経緯

一般に対策型によるがん検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 18.2%、大腸 17.2%、肺 9.8%、乳房 17.2%、子宮頸部 21.6%に過ぎなかったが、前立腺がんは、対策型がん検診には含まれないもののP S A検査が広く行われているため、26.7%と最も高かった。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれる。その他・不明の割合が減少し、検診等で発見された割合の増加が望まれる。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見によると考えられる。肺において、他疾患の経過観察中が比較的多いのは、生活習慣病などで受診している患者は、年1回程度胸部X-Pを撮影するためと考えられる。

図9 部位別発見経緯 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)

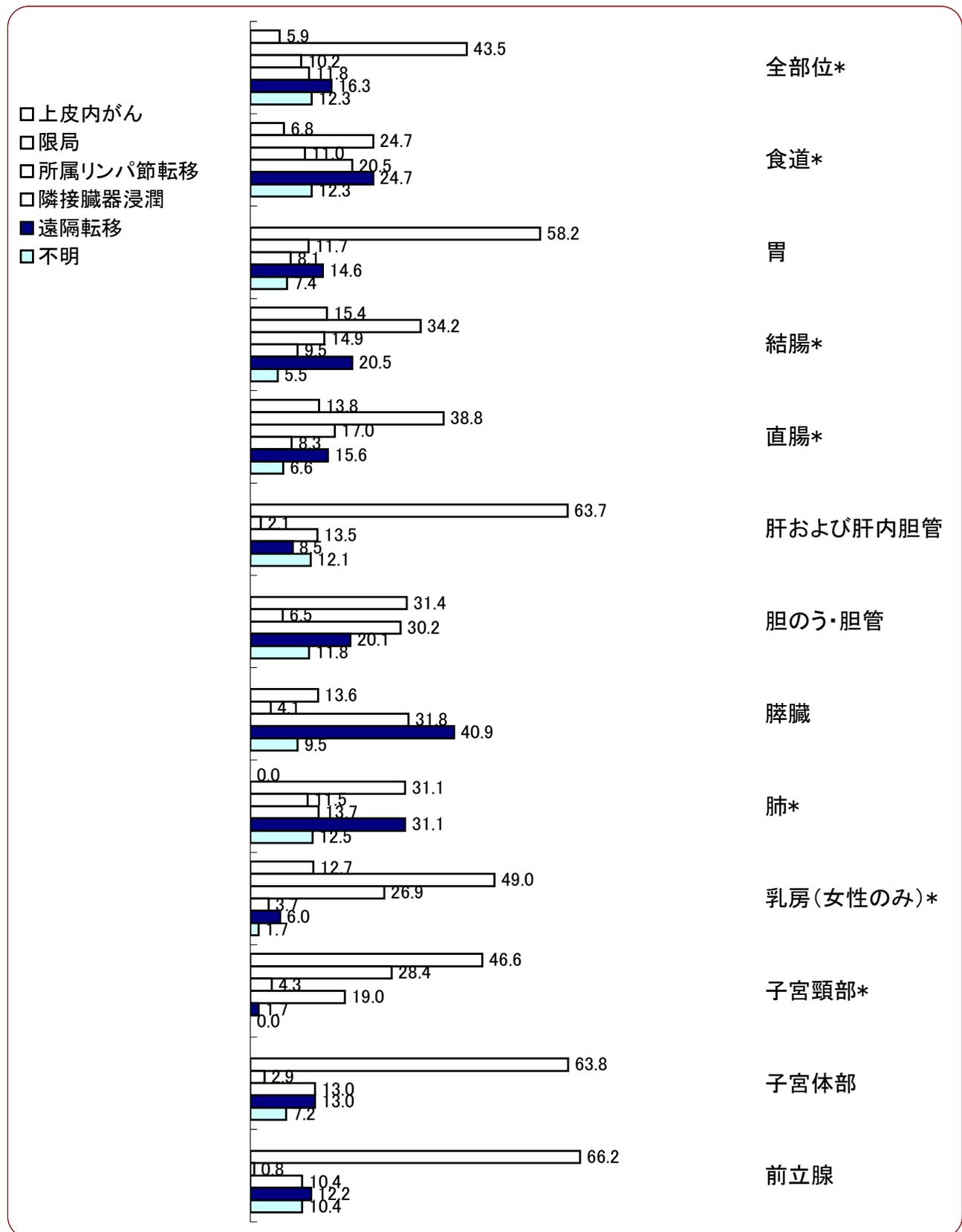


* 上皮内がんを含む

病期

胃、結腸、直腸、乳房、子宮など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内がん、限局がんの割合が高く、全部位では49.4%と平成18年と比較して1.1%増加した。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。胆のう・胆管、膵臓といった腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位でも、発見時に遠隔転移があった割合が高い。

図 10 部位別発見時の病期 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)

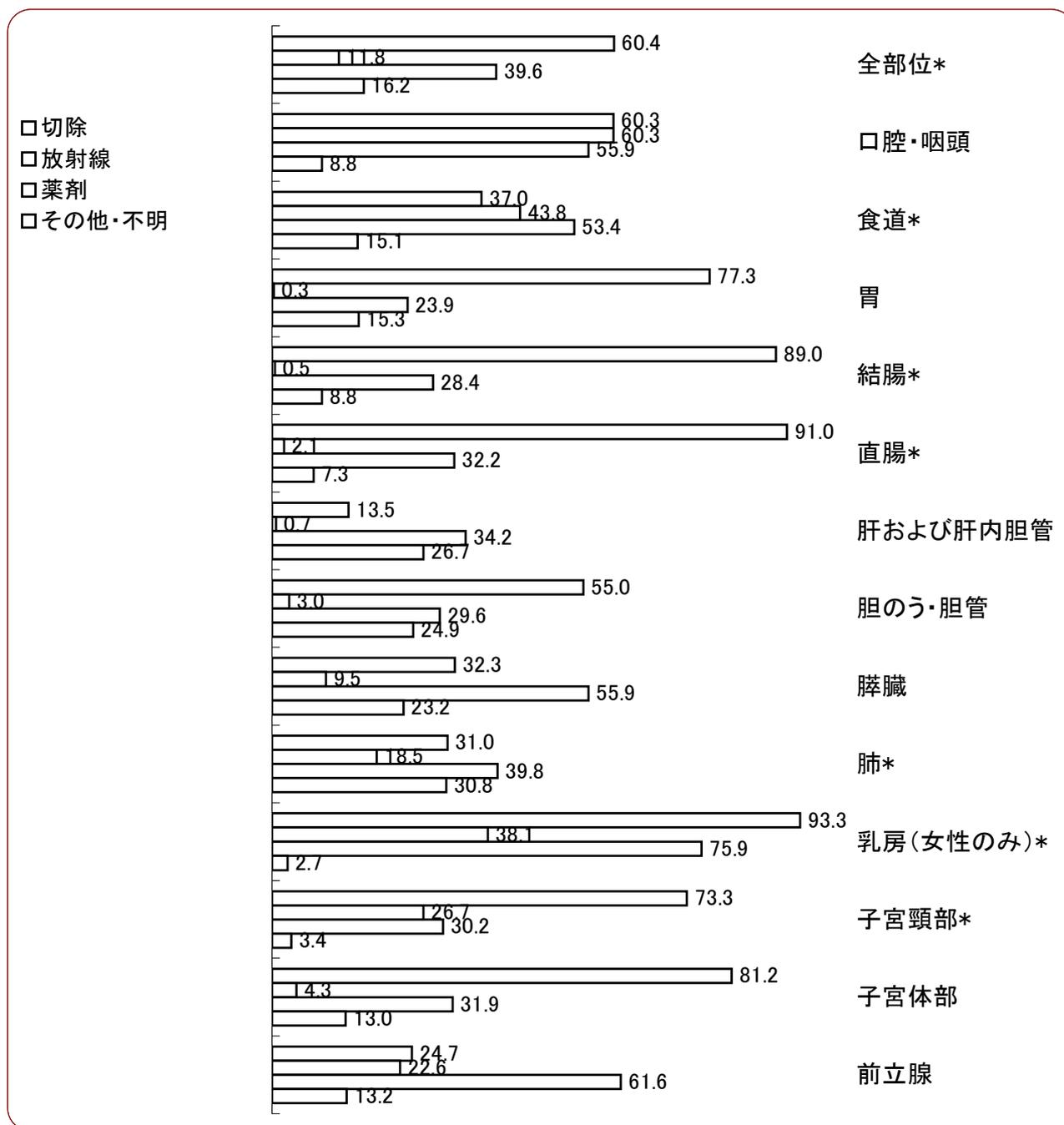


* 上皮内がんを含む
 胃の限局には、mがんを含む。
 結腸・直腸の上皮内は、mがんまでを指す。
 子宮頸部の上皮内は、CIN3を含む。

初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮では、手術などの外科的治療の割合が高い。口腔・咽頭、食道、乳房、子宮頸部、前立腺では、薬剤や放射線による治療も比較的多く行われている。肺では、手術と薬剤（化学療法）が同じ程度行われている。前立腺の薬剤による治療は、ほとんど内分泌治療と考えられる。

図 11 初回治療の方法 (%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 6-A、B から作成)



* 上皮内がんを含む

切除には、外科的、体腔鏡的、内視鏡的手術を含む。

薬剤には、化学療法、免疫療法、内分泌療法を含む。

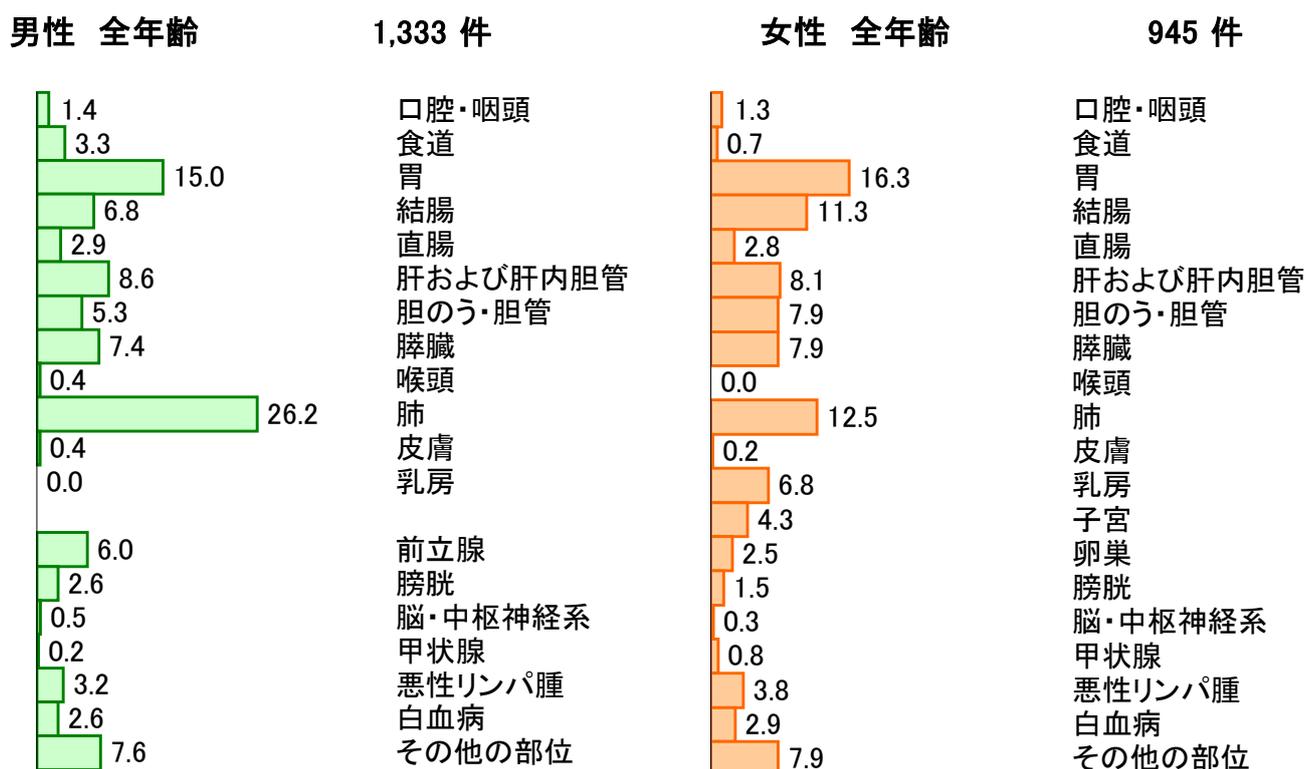
死亡の概要

平成 19 年の福井県の総死亡数は 7,866 人（男 4,040 人、女 3,846 人）で、うち悪性新生物による死亡は 2,278 人（男 1,333 人、女 945 人）で総死亡の 29.0%を占めた。

男性は肺がん、胃がん、大腸がん、女性は胃がん、大腸がん、肺がんの順で死亡数が多い。

罹患数と比べると、男性で罹患の比較的多かった前立腺は、死因としてはそれほど多くはないことがわかる。

図 12 部位内訳 (%) (表 9 から作成)



年齢別に見たがんの死亡

福井県で平成 19 年にがんで死亡された方は、男女とも 8 割以上が 65 歳以上の方であった。ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすくなるため、がんによる死亡者も高齢者が多い（図 1 3）。働き盛りの 40-64 歳のがんによる死亡率は、男性では肺がん、胃がん、膵臓がん、肝がん、女性では乳がん、胃がん、大腸がんが高い（図 1 4）。39 歳以下のがんによる死亡は、男性では大腸、肝、膵臓、脳のがんおよび白血病、女性では胃、乳および脳のがんおよび白血病である（標準集計表 表 1 1 p53）。

部位別に見ると、男性の肝は 45 歳以上、膵臓は 50 歳以上、胃、大腸、肺は 55 歳以上から増え始め、女性は、乳房が 45 歳以上、大腸が 55 歳以上、胃、膵臓、肝は 60 歳以上、肺は 65 歳以上から増え始める。

図 13 年齢内訳 (%) (表 9 から作成)

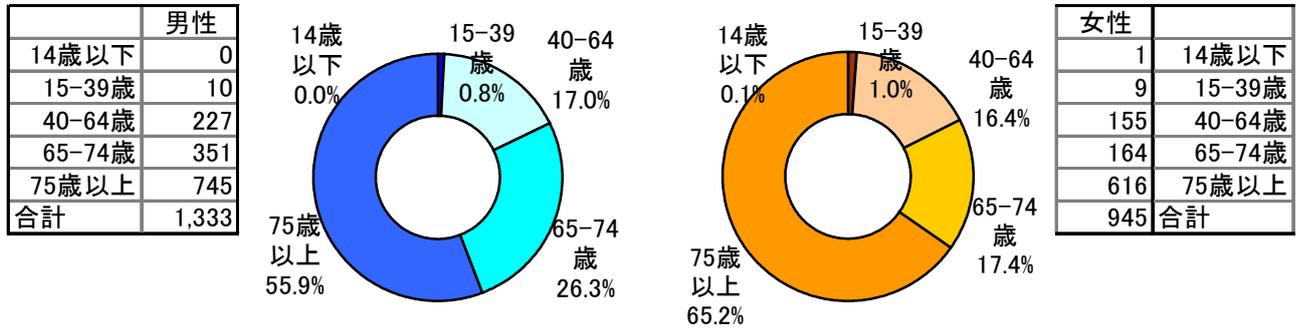
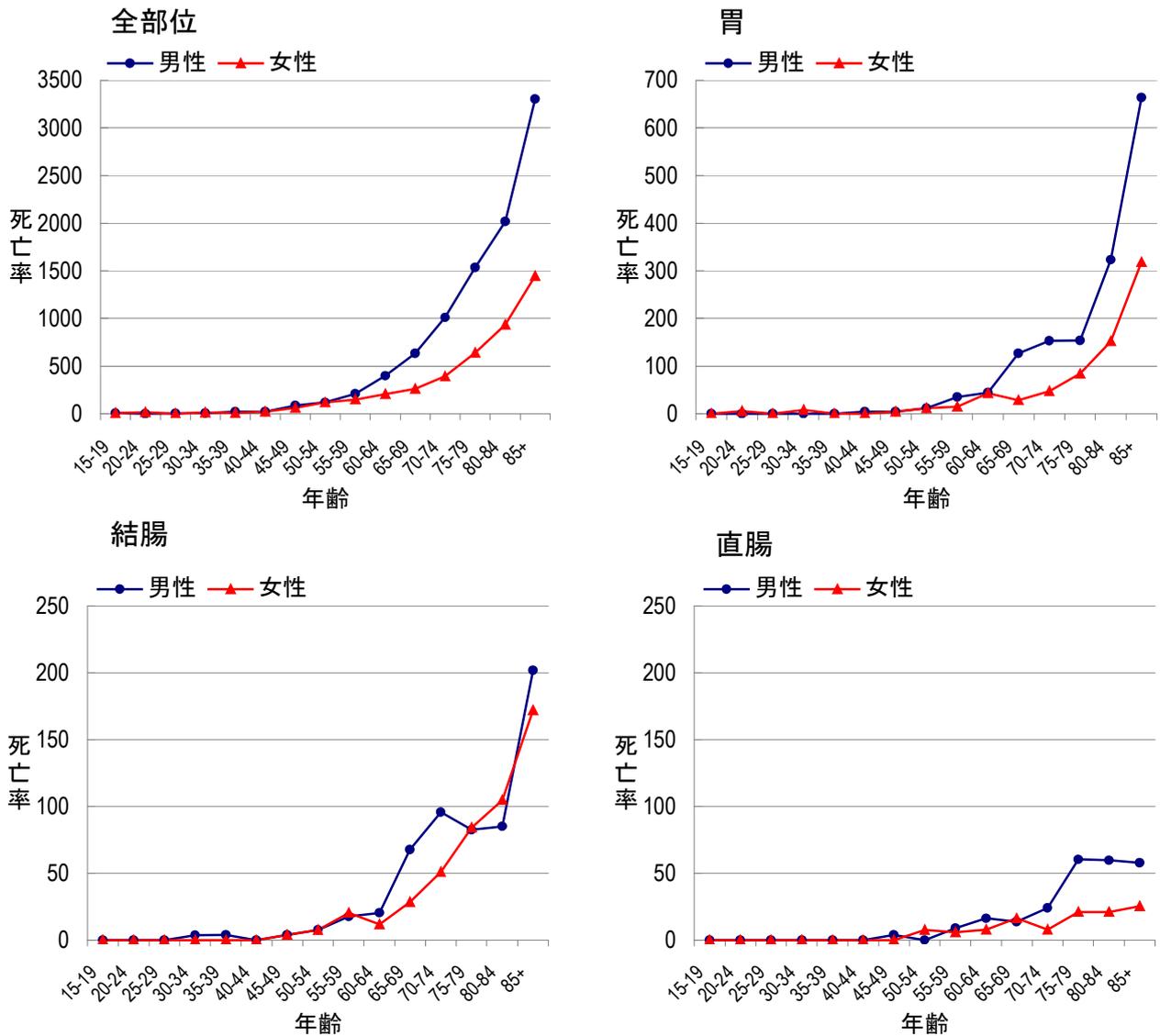


図 14 部位別年齢階級別死亡率：人口 10 万対 (表 11 から作成)



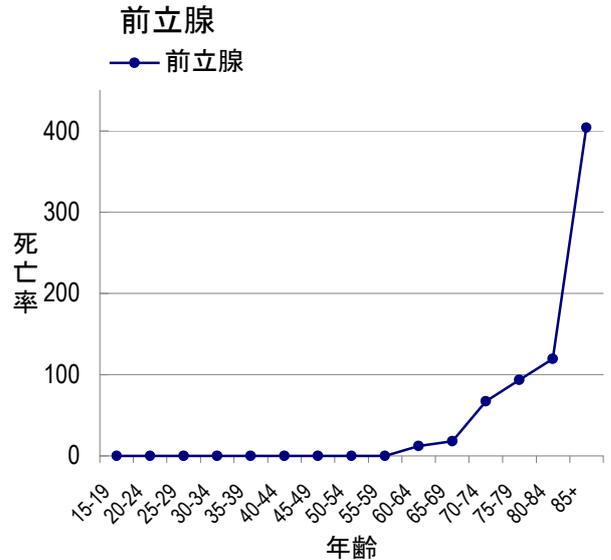
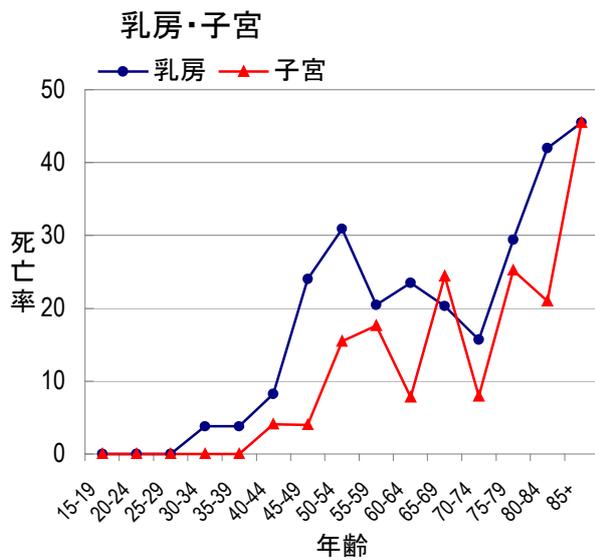
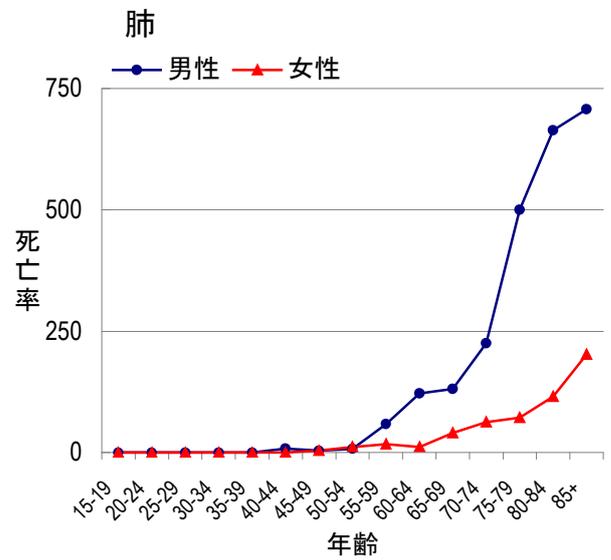
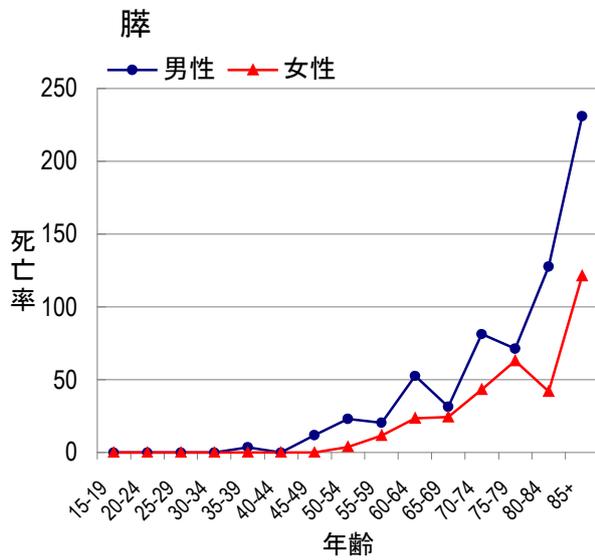
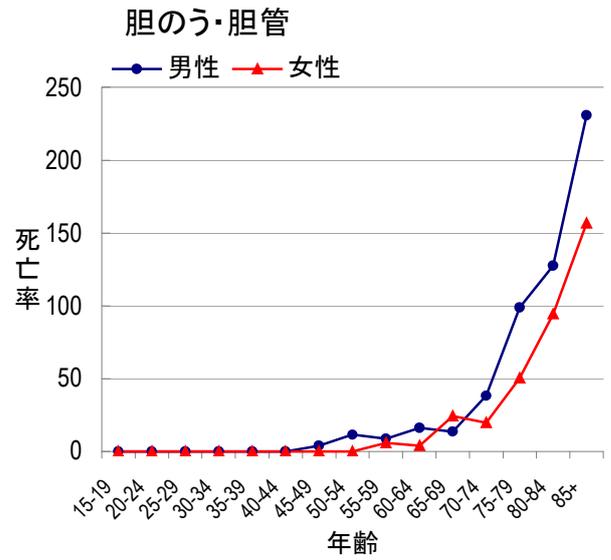
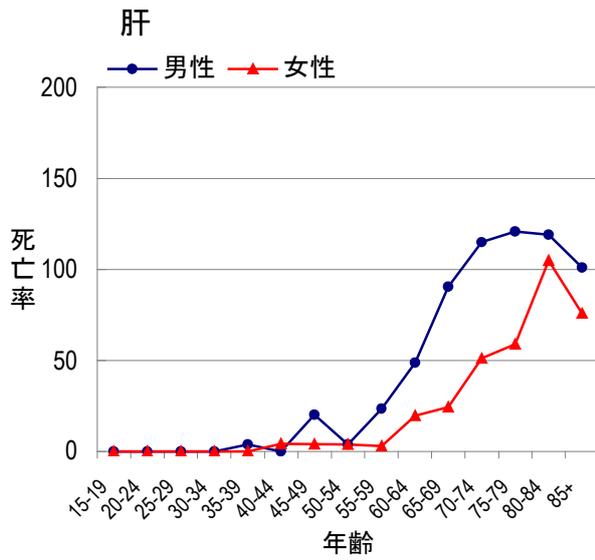


表7には、年齢階級別死亡順位を男女別に第3位まで示した。

表7 年齢階級別死亡部位順位 —男性—

平成19年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	肺	349	胃	200	大腸	128
30-34	大腸	1	—		—	
35-39	白血病	2	口腔・咽頭、大腸、膵臓、肝臓	1	—	
40-44	肺	2	胃、白血病	1	—	
45-49	肝臓	5	膵臓、腎・尿路	3	大腸、悪性リンパ腫、白血病	2
50-54	膵臓	6	白血病	4	食道、胃、胆のう	3
55-59	肺	20	胃	12	大腸	9
60-64	肺	30	膵臓	13	肝臓	12
65-69	肺	29	胃	28	肝臓	20
70-74	肺	47	胃	32	大腸	25
75-79	肺	91	胃	28	大腸	26
80-84	肺	78	胃	38	大腸	17
85以上	肺	49	胃	46	前立腺	28

年齢階級別死亡部位順位 —女性—

平成19年

	第1位		第2位		第3位	
	部位	例数	部位	例数	部位	例数
全年齢	胃	154	大腸	133	肺	118
30-34	胃	2	乳房	1	—	
35-39	乳房、白血病	1	—		—	
40-44	乳房	2	肺、子宮頸部、卵巣	1	—	
45-49	乳房	6	口腔・咽頭、胃、大腸、肝臓、膵臓、卵巣、白血病	1	—	
50-54	乳房	8	大腸、子宮頸部	4	胃、肺、卵巣	3
55-59	大腸	9	乳房	7	胃	5
60-64	胃	11	膵臓、乳房	6	大腸、肝臓	5
65-69	大腸	11	肺	10	胃	7
70-74	肺	16	大腸	15	肝臓	13
75-79	大腸	25	胃	20	肺	17
80-84	胃	29	大腸	24	肺	22
85以上	胃	63	肺	40	大腸	39

部位別死亡の年次推移

表 8 に、平成 7 年から平成 19 年までの死亡数、粗死亡率および年齢調整死亡率の推移を男女計で主な部位別に示した。

表 8 主な部位別死亡数、死亡率の推移

A) 死亡数の推移

－男女計－

平成 7 年～平成 19 年

年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	1,780	38	343	147	65	194	138	127	318	45	30	36	30	51	37
H 8～H10	1,927	36	362	140	69	203	133	134	372	55	29	44	35	63	41
H11～H13	2,039	36	350	174	77	210	143	152	395	55	35	51	37	62	41
H14～H16	2,154	46	347	158	82	243	140	155	423	48	32	59	43	73	50
H17～H18	2,238	52	359	173	96	220	153	185	436	73	73	55	55	58	45
H19	2,278	51	354	197	64	191	146	173	467	64	64	80	48	77	61

B) 粗死亡率（人口 10 万人対）の推移

－男女計－

平成 7 年～平成 19 年

年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	217.0	4.6	41.8	17.9	7.9	23.6	16.8	15.5	38.8	5.5	3.7	4.4	3.7	6.2	4.5
H 8～H10	234.7	4.3	44.1	17.1	8.4	24.7	16.2	16.3	45.4	6.7	3.5	5.3	4.3	7.6	5.0
H11～H13	248.9	4.4	42.8	21.2	9.4	25.7	17.4	18.6	48.2	6.7	4.3	6.3	4.5	7.5	5.0
H14～H16	263.9	5.6	42.5	19.4	10.0	29.7	17.1	19.0	51.9	5.8	3.9	7.3	5.2	8.9	6.1
H17～H18	274.4	6.2	43.7	19.8	12.2	28.0	17.9	21.1	54.2	6.9	7.3	16.5	6.2	7.1	5.4
H19	283.2	6.3	44.0	24.5	8.0	23.7	18.2	21.5	58.1	8.0	9.9	20.5	6.0	9.7	7.6

C) 年齢調整死亡率（人口 10 万人対）の推移

－男女計－

平成 7 年～平成 19 年

年	全部位	食道	胃	結腸	直腸	肝臓	胆嚢	膵臓	肺	乳房	子宮	前立腺	膀胱	リンパ組織	白血病
H 7	129.9	3.2	26.6	11.4	5.0	16.0	10.2	9.8	24.3	4.2	4.1	6.5	1.9	4.2	3.4
H 8～H10	140.9	2.9	26.2	10.0	5.3	15.4	8.7	9.3	26.5	5.3	4.0	7.2	2.2	4.6	3.5
H11～H13	136.9	2.6	23.4	11.4	5.4	14.5	8.4	10.0	25.5	4.6	4.6	7.5	2.0	4.4	3.3
H14～H16	129.8	3.2	20.4	9.1	5.2	15.5	7.3	9.6	24.7	4.4	3.8	7.9	1.8	4.6	3.6
H17～H18	128.9	3.4	19.7	9.0	6.4	13.8	7.6	10.1	23.7	4.5	3.7	8.0	2.2	3.2	3.0
H19	126.2	3.1	18.1	10.7	3.7	11.7	6.8	10.1	24.6	5.1	5.1	9.1	2.0	3.9	4.1

※複数年については平均数および率である。

※胆嚢は胆管を含む。

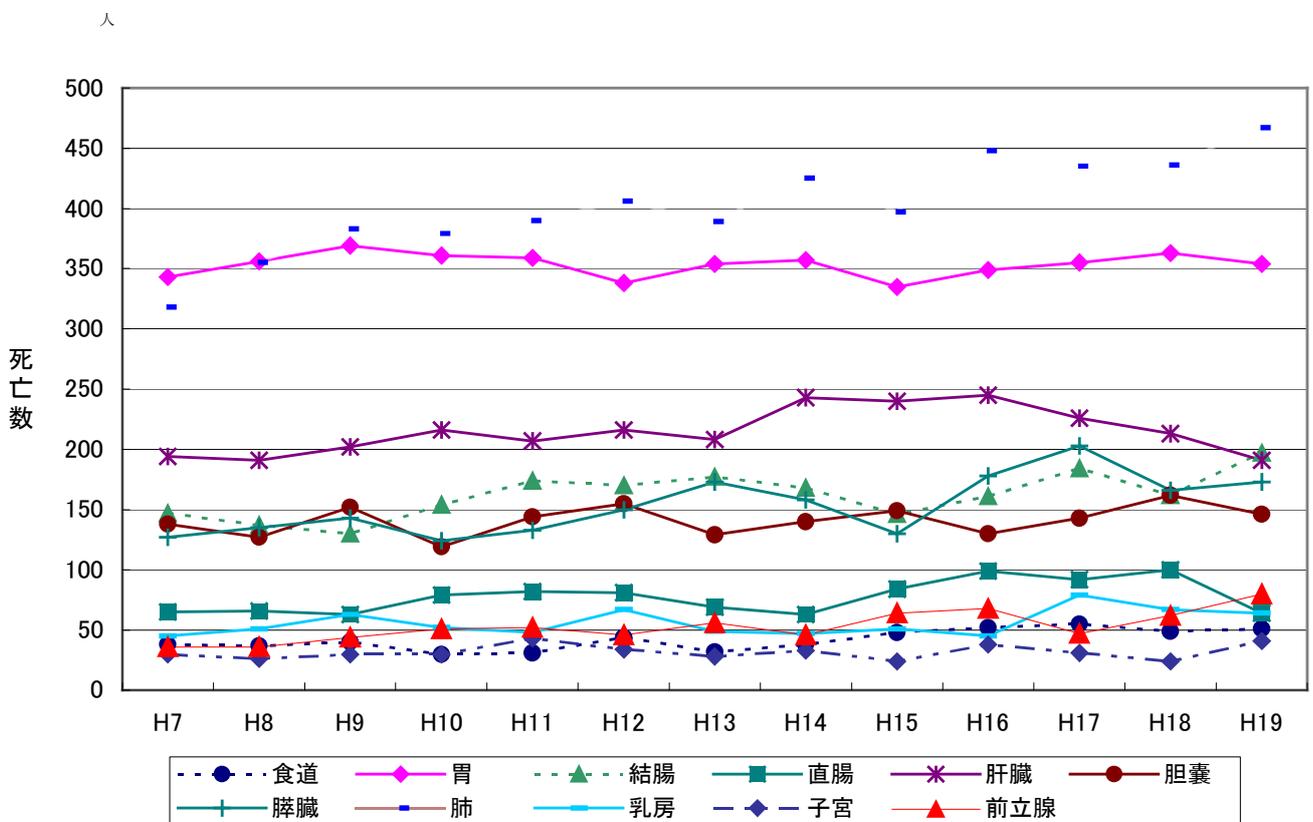
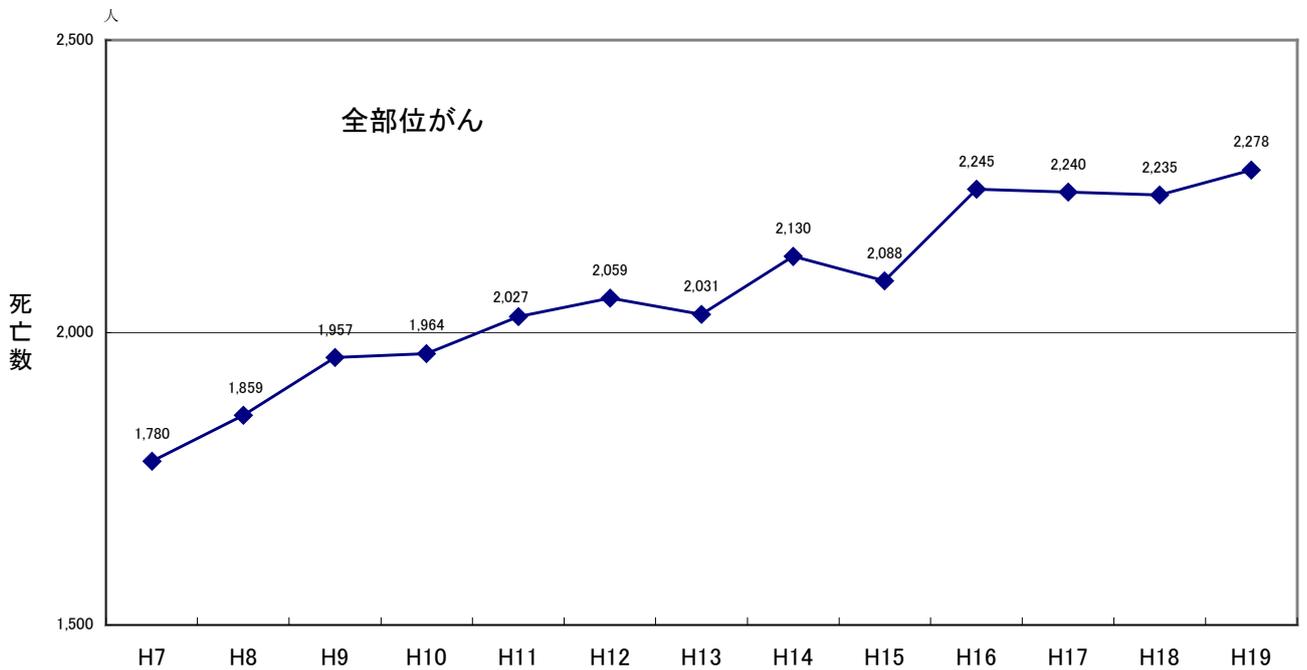
※子宮がんは女のみの数および率を用いた。

※前立腺がんは男のみの数および率を用いた。

年齢調整死亡率でみると、全部位のがんの死亡は年々減少している。平成 17 年～18 年の平均率と比較すると、主に直腸がん、肝がん、胃がん、胆のうがんの減少によるものと考えられる。

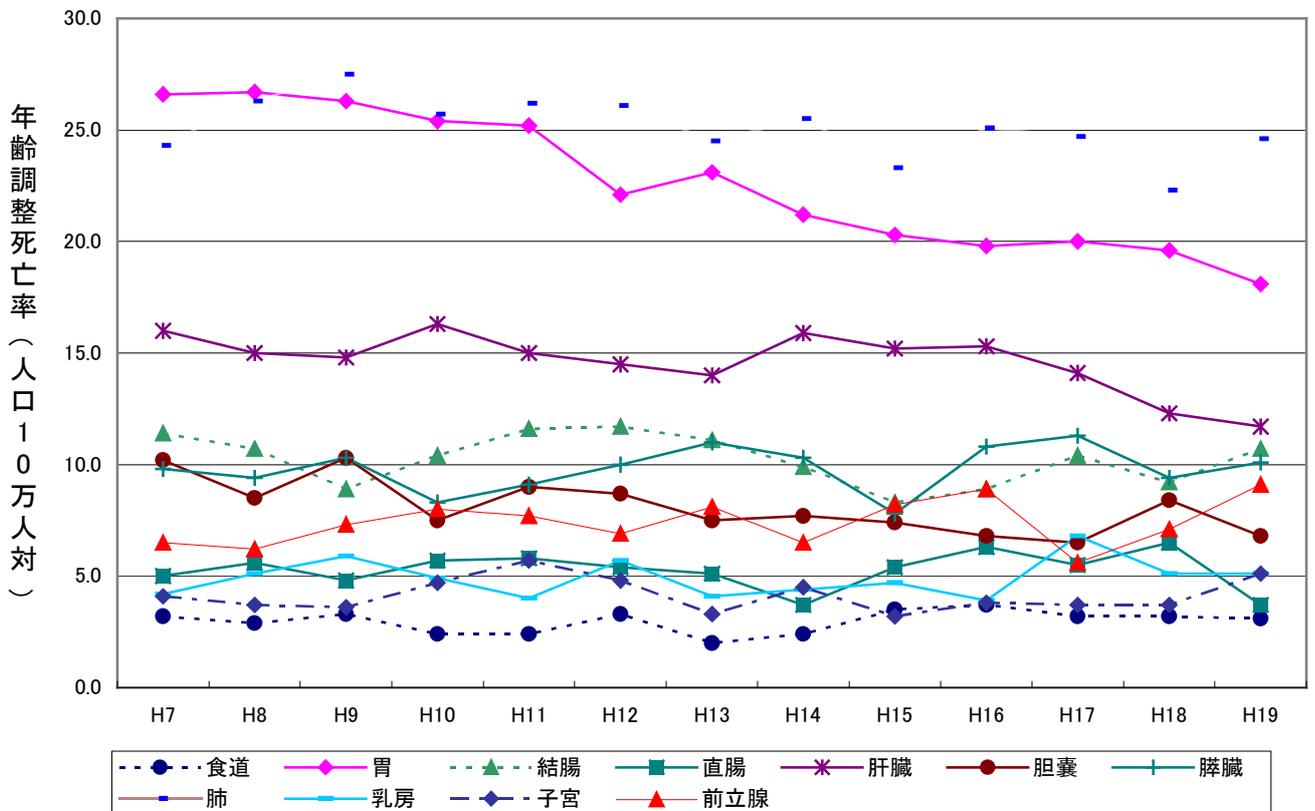
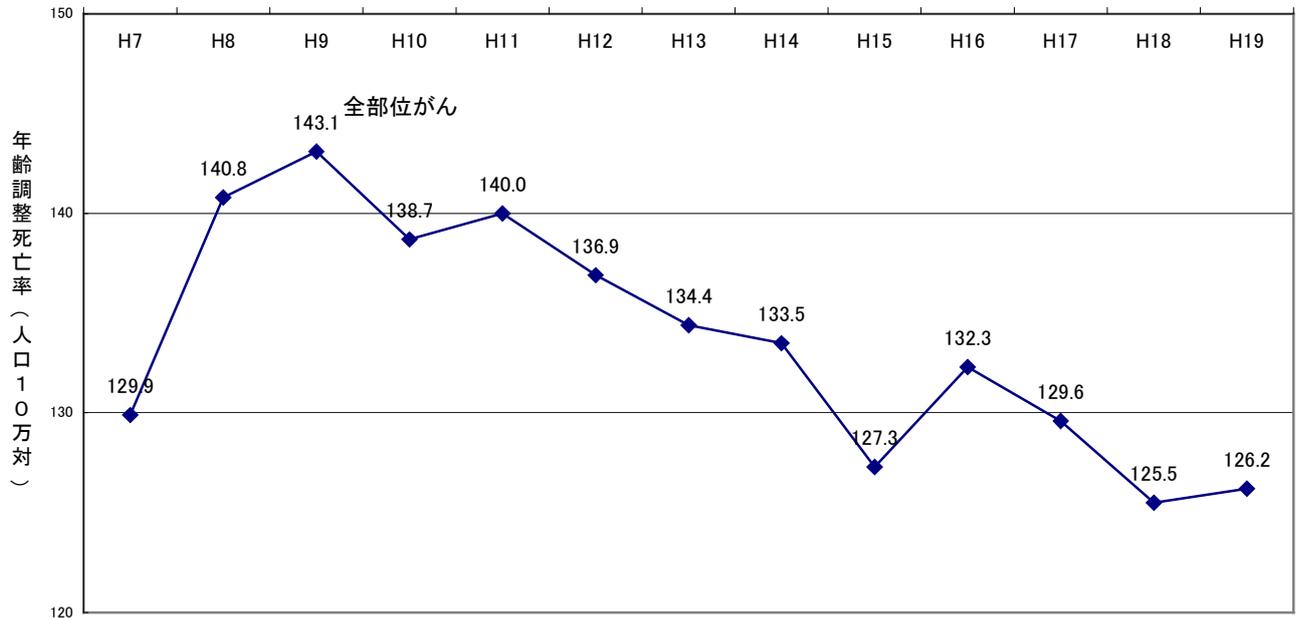
一方、結腸がん、子宮がん、前立腺がん、肺がん、白血病の死亡率は増加した。

図 15 主な部位別死亡数の推移 (男女計)



※ 胆嚢は胆管を含む。

図 16 主な部位別年齢調整死亡率の推移 (男女計)

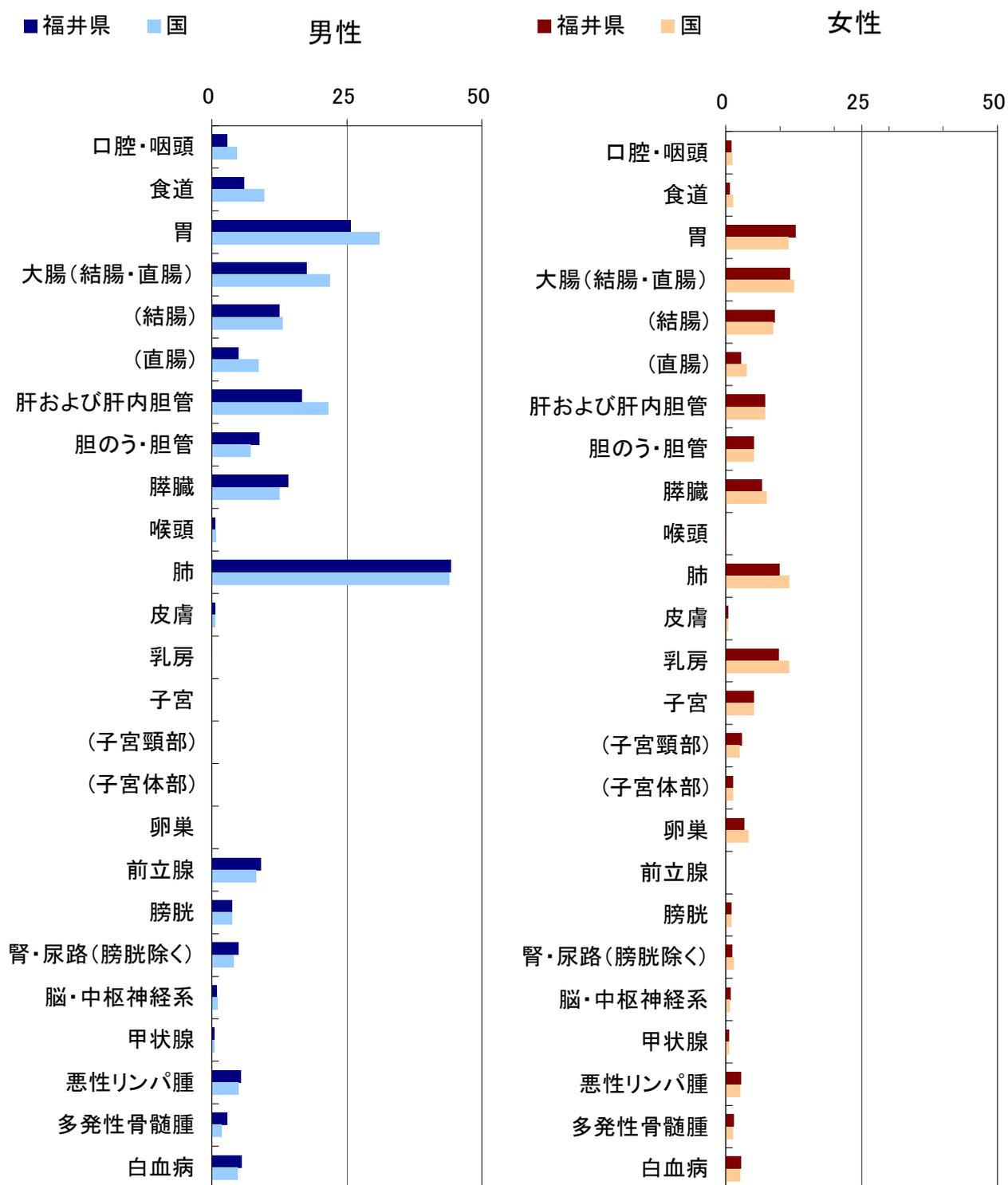


※胆嚢は胆管を含む。
 ※子宮がんは女のみの率を用いた。
 ※前立腺がんは男のみの率を用いた。

福井県のがんの死亡の特徴

平成19年の福井県のがんの死亡は、ほぼすべての部位において、日本全体と比較し、死亡率が低い。特に、男性の食道、胃、大腸、肝、女性の肺、乳房においてその差が大きい。一方、男性の胆のう・胆管、膵臓、前立腺および女性の胃は、全国値よりも死亡率が高い。

図17 部位別がん年齢調整死亡率：人口10万対（表9から作成）



部位別 5年相対生存率（平成 16 年）

表 9 には、届出患者について、平成 5 年から平成 13 年までの 3 年ごとの 5 年相対生存率の平均値と、平成 14 年から平成 16 年の 5 年相対生存率を比較して示した。

全部位（上皮内がんを含まない）の 5 年相対生存率は、平成 16 年は 61.1% となり、近年では最も高く、数値は改善傾向にある。

表 9 主要部位別 5 年相対生存率

部 位	5 年相対生存率					
	H5～H7	H8～H10	H11～H13	H14	H15	H16
全 部 位	55.1	56.6	58.5	56.9	60.1	61.1
食 道	21.1	36.2	31.7	34.6	44.8	43.2
胃	67.0	66.1	68.1	65.5	69.6	70.9
結 腸	69.8	66.7	65.8	65.6	66.5	69.5
直 腸	59.6	68.1	65.8	62.7	67.3	64.0
肝 臓	17.7	26.3	33.5	27.6	28.8	30.9
胆嚢胆管	24.2	18.8	24.7	23.6	24.2	22.9
膵 臓	8.7	8.1	6.4	6.8	7.7	5.4
肺	19.9	23.2	29.8	30.4	32.0	33.1
乳 房	84.2	88.0	87.5	87.7	89.2	92.3
子 宮	74.0	72.1	79.0	85.8	75.8	69.5
卵 巢	52.4	62.1	54.5	72.6	61.8	61.7
前立腺	70.4	74.0	90.1	88.1	95.7	95.7
膀 胱	83.7	78.8	88.1	82.4	80.6	79.5
甲 状 腺	92.2	93.8	93.2	91.1	92.2	85.3
リンパ組織	52.5	56.7	59.9	60.0	54.3	58.2
白 血 病	28.3	42.1	35.5	24.5	26.2	31.6

※ 複数年については平均率である。

※ 届出票による登録を対象にしており、補充票および死亡票のみで登録されたものは含まない。

※ 上皮内がんを除く。

おわりに

福井県がん登録事業にご協力いただいた各医療機関に深謝いたしますとともに、関係者の皆様のご支援に謝意を表します。

特に、登録作業の実務および本報告書の作成に多大なるご尽力をいただいた方々に感謝申し上げます。

（平成 23 年 10 月）